

令和4年度 第2四半期

退職等年金給付組合積立金 運用状況



目次

- ・ 令和4年度 第2四半期運用実績（概要） P 2
- ・ 令和4年度 第2四半期市場環境（その1） P 3
- ・ 令和4年度 第2四半期市場環境（その2） P 4
- ・ 令和4年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合 P 5
- ・ 令和4年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り P 6
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り P 7
- ・ 令和4年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 P 8
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 P 9
- ・ 令和4年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額 P 10
- ・ 資産運用に関する専門用語の解説 P 11

令和4年度 第2四半期運用実績（概要）

運用収益額 + 0.74 億円 ※実現収益額
(第2四半期)

運用利回り + 0.09% ※実現収益率
(第2四半期)

運用資産残高 847 億円
(第2四半期末) (簿価ベース)

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

(注1) 収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

令和4年度 第2四半期市場環境(その1)

【各市場の動き(令和4年7月～令和4年9月)】

- 国内債券：10年国債利回りは、7月下旬から8月下旬にかけて、世界的な景気後退懸念を背景に、一時的に0.2%を割り込む局面もありましたが、主要国の中央銀行がインフレ鎮静化に向けて利上げを継続する中、基調としては利回り上昇傾向となりました。その一方で、日本銀行が従前からの金融市場調節方針を堅持し、連日の無制限指し値オペ等で利回りの上昇を抑えたことから、同行が上限とする0.25%近辺での横ばい推移となりました。
- 国内株式：国内株式(日経平均株価)は、今春からの大幅円安傾向や、7月の参議院選挙における自民党の大勝を受けて上昇傾向を辿り、8月の半ばには年始以来となる2万9千円台に上昇しましたが、8月26日に、米国連邦準備理事会(FRB)のパウエル議長が、景気後退懸念を背景とした市場の利下げ観測をけん制するタカ派発言を行うと、米国株式に連られる形で下落に転じ、期末には2万6千円台を割り込みました。
- 外国債券：米国10年国債利回りは、急速な金融引き締めによる景気後退懸念から、3.0%を割り込んでスタートしましたが、堅調な雇用情勢で懸念が後退する中、8月26日のパウエル発言等で利回りの上昇が加速し、期末には3.8%台に達しました。ドイツ10年国債利回りは、世界的な景気減速懸念や、ロシアがドイツへの天然ガス供給を削減したことで、一時、1.0%を割り込みましたが、8月下旬、欧州中央銀行(ECB)高官の大幅利上げ支持発言から利上げ観測が高まると、2.1%台まで上昇しました。
- 外国株式：米国株式(NYダウ)は、2023年中の利下げ観測が浮上する中、4-6月期の主要企業的好決算等を背景に株価は上昇する場面もありましたが、8月のパウエル発言でインフレ抑制優先の姿勢が確認されると、株価は期末にかけて大きく下落して3万ドルを割り込みました。欧州株式(ドイツDAX)は、7月には米国株高を支えに上昇しましたが、ロシアによる天然ガス供給削減を契機に景気後退懸念が再燃し、期末かけて下落しました。
- 外国為替：ドル/円は、7月には米国の景気減速懸念の高まりによるFRBの大幅利上げ観測の後退で、一時的に円安修正の動きとなりましたが、FRBのインフレ抑制優先、利上げ継続の方針が示されるとドル高・円安の流れが再燃しました。9月22日には、日本銀行の円買い介入がありました。ドル高・円安の基調は変わりませんでした。ユーロ/円は、概ねドル/円に準じた展開で推移し、7月には一時的に円高に振れる局面もありましたが、ECBの大幅利上げ開始で、期末にかけてユーロ高・円安が加速しました。

○ ベンチマーク収益率

	令和4年6月末～ 令和4年9月末
<国内債券> NOMURA-BPI総合	▲0.66%
<国内株式> TOPIX(配当込み)	▲0.79%
<外国債券> FTSE世界国債インデックス (除く日本、中国、ヘッジなし・円ベース)	▲1.78%
<外国株式> MSCI ACWI (除く日本、円ベース、配当込み)	▲0.55%

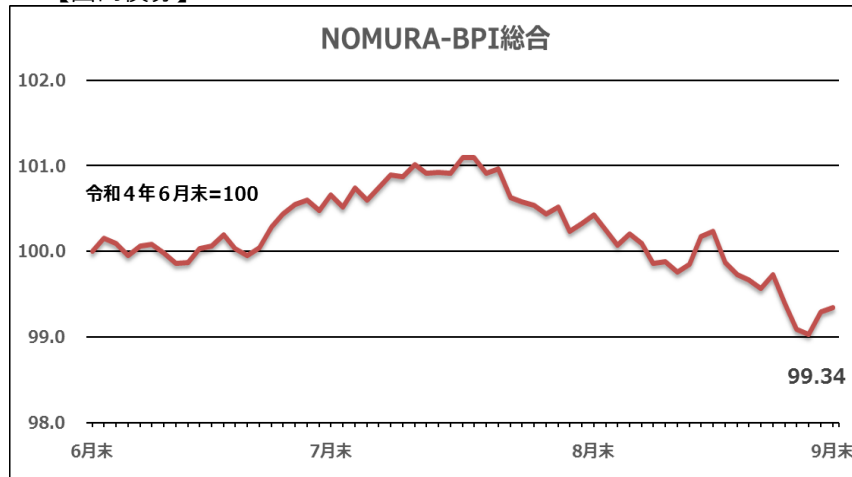
○ 参考指標

		令和4年6月末	令和4年7月末	令和4年8月末	令和4年9月末
国内債券	新発10年国債利回り (%)	0.231	0.185	0.226	0.244
国内株式	TOPIX (ポイント)	1,870.82	1,940.31	1,963.16	1,835.94
	日経平均株価 (円)	26,393.04	27,801.64	28,091.53	25,937.21
外国債券	米国10年国債利回り (%)	3.013	2.649	3.193	3.829
	ドイツ10年国債利回り (%)	1.336	0.817	1.541	2.108
外国株式	NYダウ (ドル)	30,775.43	32,845.13	31,510.43	28,725.51
	ドイツDAX (ポイント)	12,783.77	13,484.05	12,834.96	12,114.36
外国為替	ドル/円 (円)	135.72	133.27	138.96	144.74
	ユーロ/円 (円)	142.26	136.16	139.70	141.88

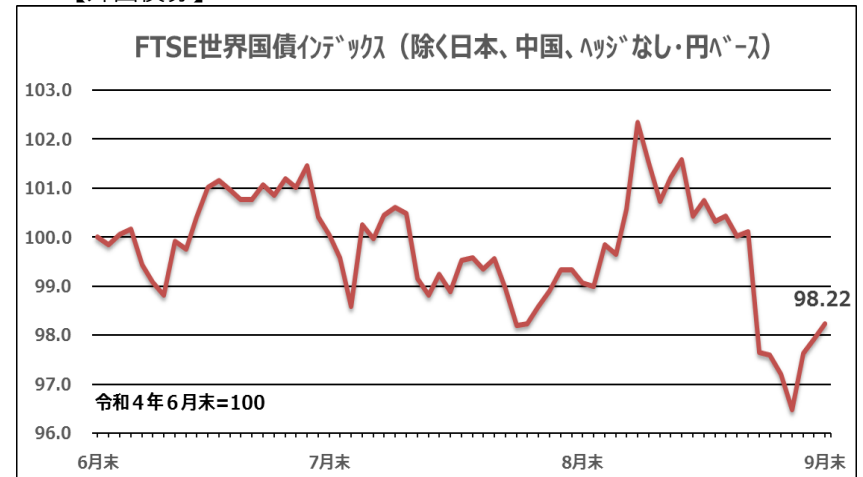
令和4年度 第2四半期市場環境(その2)

ベンチマークインデックスの推移 (令和4年度第2四半期) ※令和4年6月末時点の指数を「100」としてグラフ化しています

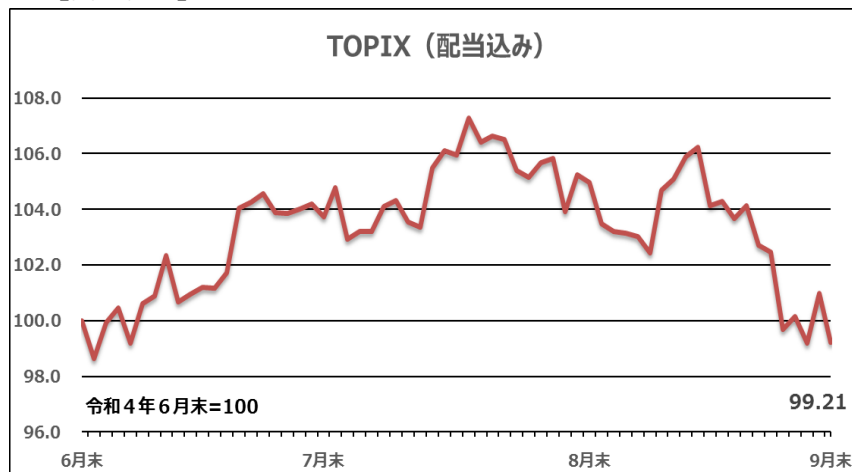
【国内債券】



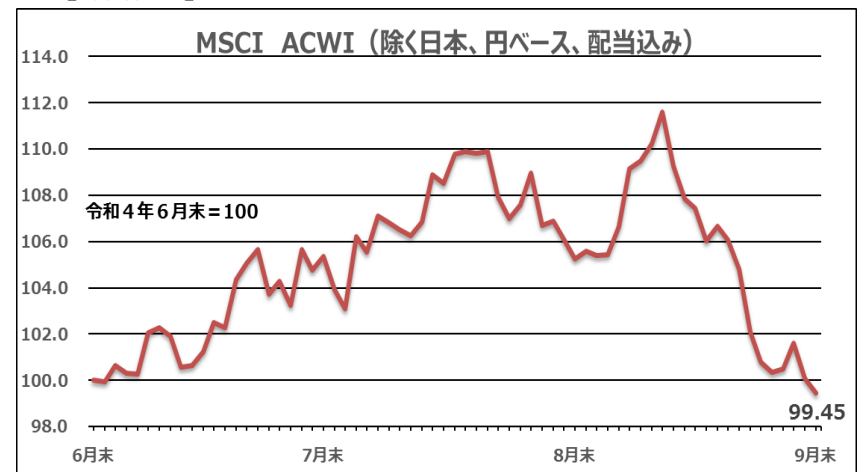
【外国債券】



【国内株式】



【外国株式】

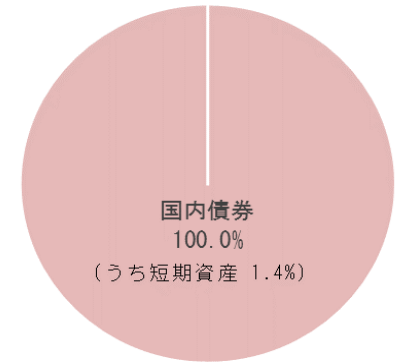


令和4年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合

(単位：%)

	令和3年度 年度末	令和4年度				基本 ポートフォリオ
		第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末	
国内債券	100.0	100.0	100.0	—	—	100.0
うち短期資産	(1.7)	(2.6)	(1.4)	—	—	
合計	100.0	100.0	100.0	—	—	100.0

第2四半期末 運用資産別の構成割合



(注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。

(注2) 資産構成割合は簿価ベースの数値です。

(注3) 記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、マイナスの数値になることがあります。

令和4年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

- 令和4年度第2四半期の実現収益率は、0.09%となりました。
 ○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：%)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.09	0.09	—	—	0.18
国内債券	0.09	0.09	—	—	0.18
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	—	—	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	▲1.44	▲0.92	—	—	▲2.33

- (注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。
 (注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
 (注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
 (注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

(単位：%)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.09	0.09	0.09	0.09	0.34
国内債券	0.09	0.09	0.09	0.09	0.34
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.68	0.11	▲0.10	▲1.69	▲1.17

令和4年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

- 令和4年度第2四半期の実現収益額は、0.74億円となりました。
 ○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：億円)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.69	0.74	—	—	1.43
国内債券	0.69	0.74	—	—	1.43
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	—	—	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	▲11.34	▲7.44	—	—	▲18.79

- (注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
 (注2) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。
 (注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。
 (注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.58	0.61	0.63	0.66	2.48
国内債券	0.58	0.61	0.63	0.66	2.48
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	4.63	0.78	▲0.72	▲13.22	▲8.53

令和4年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額

(単位：億円)

	令和4年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益
国内債券	815	795	▲20	847	819	▲28	—	—	—	—	—	—
うち短期資産	(21)	(21)	(0)	(12)	(12)	(0)	—	—	—	—	—	—
合計	815	795	▲20	847	819	▲28	—	—	—	—	—	—

(単位：億円)

	令和3年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益	簿価	時価	評価 損益
国内債券	693	701	7	726	733	7	764	770	6	786	777	▲8
うち短期資産	(19)	(19)	(0)	(13)	(13)	(0)	(25)	(25)	(0)	(13)	(13)	(0)
合計	693	701	7	726	733	7	764	770	6	786	777	▲8

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 時価及び評価損益は、仮に時価評価を行った場合の参考値です。

(注3) 上記数値(令和4年度)は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、簿価、時価共にマイナスの数値となることがあります。

資産運用に関する専門用語の解説

- 実現収益額
(計算式)
実現収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減 (当期末未収収益 - 前期末未収収益)
- 実現収益率
(計算式)
実現収益率 = 実現収益額 ÷ 簿価平均残高
- 総合収益額
実現収益額に資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。
(計算式)
総合収益額 = 実現収益額 + 評価損益増減 (当期末評価損益 - 前期末評価損益)
- 修正総合収益率
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。総合収益額を、元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。
(計算式)
修正総合収益率 = 総合収益額 / (簿価平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益)
- 格付
債権の信用力や元利金の支払能力の安全性などを総合的に分析してランク付けし、アルファベットなど分かりやすい記号で示されたものです。格付機関が付与します。
一般に BBB 格までが投資適格とされ、BB 格以下になると信用リスクが高くなるとされています。